

# 霊界特集6：個人的な霊生 を成すための生き方

真の愛のビジョン

# 個人的な霊人体の成長について

- 個人的な霊人体の成長については、原理講論にも記載されてるが、具体的な霊人体の成長を実感している人は、多くはない。
- 何故、霊人体の成長を実感できないのか、それは、墮落により、霊的な無知に堕ちたので、霊人体を成長させる方法を知ることができなくなってしまった。
- どうすれば、墮落により失われた霊的な知を取り戻し、霊人体の成長させることができるのか、個人的な見解をお伝えします。

靈的な無知を克服する必要性

# 靈的な無知による障害

- 靈的な無知がもたらす、一番の大きな障害は、神様の存在を認識することができないことである。何故かと言えば、神様は、靈的な存在であるので、靈的に無知なひとは、神様の存在を識別できないからである。
- また、神様の存在を認識できない人は、神様が被造物を創造された目的を認識することも、理解することもできないのである。ここで認識すると言うことは、知識として、知ることを意味するのではなく、実際に創造目的通りに生き、創造目的を実体化することを意味するのである。

# 靈的な無知の克服と祝福

- 統一教会の祝福家庭は、祝福を受けることにより、神様から祝福を受けたので、靈的な無知を克服していると勘違いしている方々が多く見受けられる。しかし、実際に話を聞いてみると、常に、神様と疎通し、神様の心情と相対している人は、殆ど、見受けられない。
- 祝福とは、あくまで、神様からの愛であり、愛を受けたから、創造目的を完成したと考えるのは、拡大解釈である。祝福により、神様が愛することができる対象になり得る可能性が与えられたのは、あくまで、神様の視点からの変化であり、祝福を受けた後、自らの墮落性を克服していないのであれば、墮落人間と大して変わらないのである。

# サタンを克服することで、靈的な無知を克服する。

- どうすれば、墮落性を脱いで、靈的な無知を克服できるのでしょうか、それは、墮落により結ばれたサタンとの因縁を断つ必要がある。サタンとの因縁を断つことができれば、神様が愛することができる愛の相對圏に入ることができる。
- 神様の愛の相對圏に入れば、神様の生心から生素を受けることができ、自らの創造目的を認識し、理解できるようになる。それにより、靈的な無知を克服できるのである。墮落人間として、サタンと因縁を結んでいる限り、サタンの主管下にあり、靈的な無知を克服できないのである。

靈的な知の必要性

# 靈的な知を妨害するサタン

- 祝福家庭を含めた全ての墮落人間は、神様の愛の相對圈に入ることができない。何故、墮落人間は、神様の愛の相對圈に入ることができないのか、それは、墮落人間は、サタンの主管下にいるので、神様が愛したいと望んでも、サタンが許さないのである。
- 祝福を受けたので、神様が愛することができる因縁は与えられたとしても、祝福を受けた後、自己中心的な愛を持っているので、サタンは、自己中心的な愛を条件に主管するのである。



# サタンとの戦いに勝利することで、靈的な知を得ることができる。

- どうすれば、サタンの主管下から抜け出し、神様の愛の相對圈に入ることができるのか。それは、サタンと戦い、勝利することにより、墮落性を克服する。
- どうすれば、サタンと戦えるのか、最初は、自らを神様の代わりに愛することである。それにより、自らの墮落性を神様から与えられた創造性に変えながら、神様の代わりに人類を愛することができるようになる。神様の代わりに人類を愛しながら、サタンに勝利することにより、サタンから主管性を取り戻すのである。
- サタンに勝利できれば、自らに与えら得た創造目的を知ることができる。そして、どうやって、サタンが人類を主管してきたのか、知ることにより、サタンに勝てるノウハウを得ることができる。結果的に、靈的な戦いに勝利することで、靈的な知識と経験を得るのである。

靈的な力の必要性

# 靈的な力が必要な理由

- 靈的な力が必要なのは、自分だけのためではなく、誰かを靈的に愛し、神様の愛に導くためである。信仰では、靈的な無知は克服できない。また、信仰では、人類を神様の前に導くことができない。
- 靈的な力とは、サタンと戦い、勝利した経験を意味する。何故かと言えば、靈的な知恵を持っている人は、サタンからも認識される存在になるので、昼夜を問わず、サタンから狙われる。サタンから攻撃されても、サタンと戦い勝利することにより、靈的な無知を克服し、靈的な知により、神様の前に人類を導くことができる。

# 靈的な力で、靈的な無知を克服する。

- 靈的な力をもつことにより、サタンと戦い勝利できる確率が上がる。そして、神様の代わりに人類を愛することにより、神様が人類を愛している愛の理解できるようになる。神様を理解することにより、創造目的が知ることができ、靈的な無知を克服できるのである。靈的な力がある人は、神様が必要とされるので、自然に神様と意思疎通する時間が長くなる。

霊人体の成長の必要性

# 靈的な知と力で、神様の愛の相對圏に立つ。

- 靈的な知と力を得ることにより、神様の愛の心情圏に立つことができる。神様を真の愛を理解することで、神様の真の愛の世界である靈界について、理解できるようになる。
- 人間が靈界で生活する体である靈人体とは、肉体の死によって、生まれる体ではなく、既に、地上生活しながら形成されている体である。どうすれば、靈人体が成長するのであろうか、それは、地上生活を創造目的通りに生きた肉心から生力要素が、神様から生素が与えられることにより成長するようになっている。

# 霊生を意識した地上生活

- また、霊界は、死後に訪れる世界ではなく、地上生活において、既に、霊人体が住んでいる世界である。地上生活で、霊界を認識できないのは、霊人体が成長しておらず、霊的な五感を備わっていないからである。霊人体がある程度、成長しない限り、地上において、霊界を認識できる五感を得られない。
- 例えば、新生児レベルの霊人体であれば、言葉を発することや、物の事を認識できる能力が備わっていない。つまり、地上生活で、霊界を認識できないのは、幼児レベルまで至っていないからである。幼児になれば、言葉を発したり、物事がある程度、認識できるのである。

# 地上生活の目的と霊人体の成長

- 神様が人間を創造された目的は、人間の死後、神様の真の愛の世界である霊界で、永遠に愛を分かち合うためであった。つまり、霊界での生である霊生をなすために霊人体を成長させることが、地上生活の目的である。
- 地上生活において、肉体が成長したからと言って、霊人体が成長するために努力していないのであれば、霊人体の成長は見込めない。信仰では、霊人体は成長しないので、残念ながら、多くの祝福家庭は、霊人体が成長していない。勿論、祝福により、神様から愛された条件があるので、少しは、霊人体が成長しているが、それは、本人が努力する以上に神様が無条件的に愛された結果である。



まとめ

# 個人的な霊生を成す理由

- 是非、地上生活において、霊界での生である霊生を成すために努力される方が増えることを願うのである。ここで言う、霊生とは、個人の段階であり、個人の段階の霊生をなすことができれば、次の家庭の段階の霊生を成すのに大きく貢献できるのである。
- 私は、幼い時、事故で、霊眼が開けてしまい、その後は、日常的にサタンと悪霊に襲われる生活が続けてきた。その中で、神様にすがり、神様を頼る中で、神様の悩みや苦しみを理解するようになった。まだ、神様の願いを十分に理解しているわけでないが、人類がサンタの主観下で、神様の愛の相対圏に立てていない現実がある限り、自分ができる範囲で、貢献するつもりである。

# これから

- 少しでも、サタンの主管下から逃れ、神様の愛の相対圏に立つことで、霊界での生である霊生をなすことができる人が増えることを願う限りである。